

テーマ：江戸時代を巡る町歩き

＜2023 年 11 月 11 日（土）天候：曇天 10：00～15：30 於：枚方宿界隈と鍵屋・くらわんか船＞

受講生 21 名 + CA 2 名（廣瀬&岸本の両氏） 計 23 名にてスタート （担当：第 2 班）

京阪・枚方市駅中央口にて集合、まずは①朝のミーティングで、班毎の人数調整と観光ボランティアガイド（清水チーフ・札谷・岡村 3 氏）から、今回の「見学の概略説明」を受けスタートした。

京街道は将軍家康公が慶長 6 年、東海道の 53 宿場町に伏見・淀・枚方・守口の宿場町を加え、大坂まで 57 宿場町と定めたとされる。よって枚方宿は江戸から 56 番目、京街道 3 番目の宿場町と位置づけられた。

綺麗に整備された京街道に沿って 12 カ所の見どころの説明を受けながら市立鍵屋資料館まで移動、その中で歴史的価値を特筆すれば、京街道と磐船街道の重要な②「宗左の辻」、能勢妙見宮に安全祈願の③「常夜燈」、大名や公家などが宿泊する④「本陣として構えた池尻善兵衛の屋敷跡」、虫籠窓や出格子の伝統的町家⑤「旧木南邸屋敷」で、屋号は「田葉粉屋」、庄屋と問屋役人を兼ねた屋敷で、4 棟の土蔵を有する程の規模であった。

※以下の写真は、数字で示す太字表題



① 朝のミーティング



② 宗左の道標



③ 旅道中の安全祈願



④ 本陣の池尻家屋敷跡



⑤ 伝統的町家造りの「庄屋屋敷」

⑥「屋号・鍵屋」江戸時代の京街道・枚方宿で大坂・京の三十石船や過書船など淀川往来の「船待ちの宿」として賑わい、荷下ろしや岡場所が多い立地もあって下船客も多く、大いに賑わい発展した様子が見てとれる。

⑦「市立・枚方宿鍵屋資料館」以後、料亭や料理旅館を営んでいた上述「鍵屋」を、江戸時代に京街道や淀川を往来する上で重要な場所であった「枚方宿」の歴史を紹介する資料館として開放されている。当時の町家構造を伝える主屋は有形文化財に指定、別棟の 2 階建てでは船運にまつわる古文書や絵画・模型・映像の展示がある。又、当時の客室の建具・調度品・折上げ格天井が特徴の豪華な大広間、旧料亭の風情ある建築が健在であった。

⑧枚方船着場 アクアライナー ⑨受講生の乗船、 枚方船着場～ 八軒屋浜船着場＝乗船時間≒2 時間 30 分
江戸時代当時は主に⑩三十石船（貨客船）、⑩くらわんか船（停船する乗船客に近寄り飲食物を売り回る枚方地方の小舟を指す）、⑩過書船（淀川を定期で運営の貨客船）が淀川で運行しており、なかんずく京街道・枚方宿はその立地条件に恵まれ大いに繁栄したとある。さて帰路は枚方から大坂まで船旅の一端を体験できるのだが、長時間乗船を心配するむきもあったが天候の回復が功を奏し、景観の素晴らしさで時間を忘れた様相で終えた。



⑥ 鍵屋の主屋



⑦ 枚方宿鍵屋資料館



⑧ 観光船・アクアライナー



⑨ 乗船の ONCC 受講生



⑩ 上記三種類の船